

病害虫発生予察情報

東京都病害虫防除所

向こう1ヶ月（10月）の予報

〒190-0013 立川市富士見町 3-8-1
Tel 042-525-8236 Fax 042-529-0943

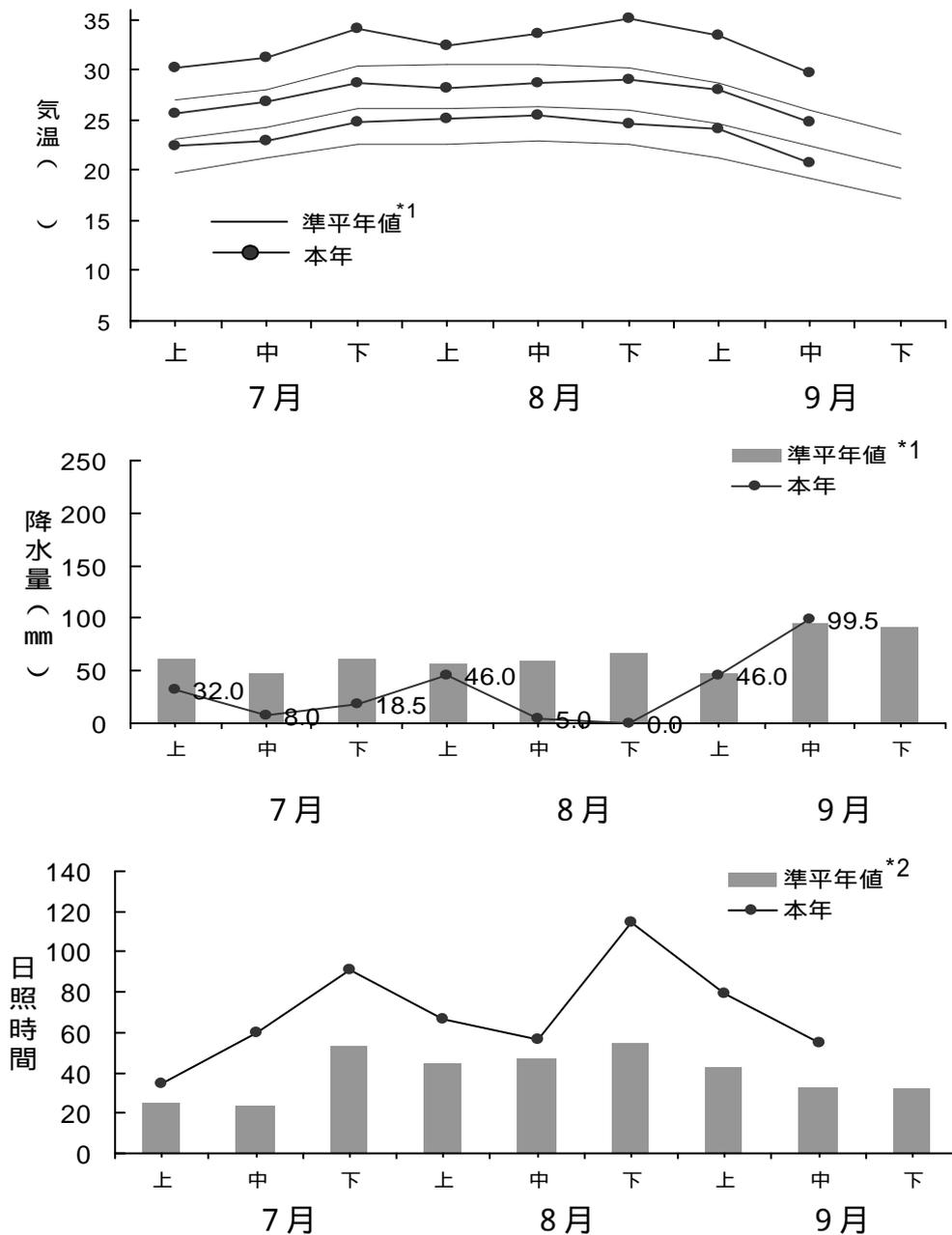
平成22年度 予報第6号

http://www.jpnpn.ne.jp/tokyo
e-mail: S0200303@section.metro.tokyo.jp

【気象予報】2010年9月24日 気象庁 地球環境・海洋部発表，関東甲信地方の1か月予報より

確率	要素	低い(少ない)	平年並	高い(多い)
	気温	10	30	60
	降水量	20	40	40
	日照時間	40	30	30

【気温・降水量・日照時間の経過】 準平年値と本年の9月中旬までのデータを示した。
(東京都府中市 気象庁気象観測所データ)



*1: 1979-2000の平均値, *2: 1987-2000の平均値

トマト黄化葉巻病（TYLCV）の発生に注意しましょう！！

9月の定期巡回調査において一部地域でトマトに黄化葉巻病の発生が確認されています。本病感染株は上位葉の小型化，葉脈間の黄化，葉の巻き上がり等の症状が認められる他，開花・結実不良となるため収量に大きな影響を与えます。

発病株や疑わしい株は速やかに抜き取り，ビニール等で密封し，完全に枯死させてから廃棄してください！

本病はタバココナジラミによって媒介されます。都内で優占種となっているバイオタイプQに効果の高い殺虫剤で防除を徹底しましょう！

果樹の病害虫（各根拠に記した（ ）内記号は発生助長要因の強度を示す）

1. カメムシ類（チャバネアオカメムシ・クサギカメムシ）

予報内容

発生量 並

予報の根拠

1) 予察灯及びフェロモントラップによるチャバネアオカメムシの誘殺数は平年並みである。(±)

2) 気象予報によれば気温は高く，降水量は平年並～多いと予想される。(±)

防除上考慮すべき事項

1) 防除指針に従い防除する。

茶樹の病害虫

1. 炭疽病

予報内容

発生量 やや少

予報の根拠

1) 巡回調査では各地とも発生は少ない。(±)

2) 気象予報によれば気温は高く，降水量は平年並～多いと予想される。(±～+)

防除上考慮すべき事項

1) 発生を認めたら防除指針に従い早めに防除する。

2. カンザワハダニ

予報内容

発生量 並～やや多

予報の根拠

1) 巡回調査では寄生葉率5%で平年並みである。(±)

2) 年間の発生消長は今後やや増加傾向を示す(越冬世代となる)。(＋)

3) 気象予報によれば気温は高く，降水量は平年並～多いと予想される。(±)

防除上考慮すべき事項

1) 発生の多い園では防除指針に従い防除する。

野菜の病害虫

1. キャベツ，ブロッコリー，ハクサイ，ダイコンの細菌病（軟腐病，黒腐病，黒斑細菌病）

予報内容

発生量 並
予報の根拠

- 3) 巡回調査ではいずれの作物でも発生はやや少ない。(±)
- 4) 気象予報によれば気温は高く、降水量は平年並～多いと予想される。(±～+)

防除上考慮すべき事項

- 1) 防除指針に従い防除する。
- 2) 病原細菌は害虫の食害痕などから侵入するので、害虫の防除を徹底する。
- 3) 台風や強風の後には直ちに薬剤を散布する。

2. コマツナおよびカブの炭疽病

予報内容

発生量 並

予報の根拠

- 1) 巡回調査では各地とも発生はやや少ない。(-)
- 2) 気象予報によれば、気温は高く、降水量は平年並～多いと予想される。(±～+)

防除上考慮すべき事項

- 1) 防除指針に従い初期防除に努める。

3. コマツナおよびカブの白さび病

予報内容

発生量 やや少

予報の根拠

- 1) 巡回調査では各地とも発生は少ない。(-)
- 2) 気象予報によれば、気温は高く、降水量は平年並～多いと予想される。(±～+)
- 3) 今後、増加期に向かう。(+)

防除上考慮すべき事項

- 1) 防除指針に従い初期防除に努める。

4. アブラナ科野菜のコナガ

予報内容

発生量 やや少

予報の根拠

- 1) 巡回調査では、全般的に発生は少なく、寄生幼虫は確認できなかった。(-)
- 2) 予察灯調査およびフェロモントラップ調査では誘殺数は少ない。(-)
- 3) 年間の発生活消長は今後やや増加する。(+)
- 4) 気象予報によれば気温は高く、降水量は平年並～多いと予想される。(±)

防除上考慮すべき事項

- 1) 防除指針を参照して作物ごとに防除する。

5. アブラナ科野菜のハイマダラノメイガ(ダイコンシンクイムシ)

予報内容

発生量 多

予報の根拠

- 1) 巡回調査では、各地ともアブラナ科作物での発生は非常に多い。(+)
- 2) 年間の発生活消長は今後減少に向かう。(-)
- 3) 気象予報によれば気温は高く、降水量は平年並～多いと予想される。(±)

防除上考慮すべき事項

- 1) 作物ごとに防除指針に従い防除する。また防除指針のハイマダラノメイガの

項を参照する。

2) 播種後から寒冷紗などの被覆資材により成虫の侵入を防止する。

6. アブラナ科野菜のヨトウガ

予報内容

発生量 並

予報の根拠

- 1) 巡回調査では、寄生株率2.0%で、平年よりやや少ない。(-)
- 2) フェロモントラップ調査では誘殺数はやや多い。(+)
- 3) 気象予報によれば気温は高く、降水量は平年並~多いと予想される。(+)

防除上考慮すべき事項

- 1) 防除指針を参照して作物ごとに防除する。

7. アブラナ科野菜のクスジノミハムシ

予報内容

発生量 少

予報の根拠

- 1) 巡回調査では各地とも発生は少ない。(-)
- 2) 年間の発生消長は、今後減少に向かう。(-)
- 3) 気象予報によれば気温は高く、降水量は平年並と予想される。(±)

防除上考慮すべき事項

- 1) 防除指針に従い防除する。
- 2) 播種後から寒冷紗などの被覆資材により侵入を防止する。

8. ナスうどんこ病

予報内容

発生量 並

予報の根拠

- 1) 巡回調査では各地とも発生はやや少なかった。(-)
- 2) 気象予報によれば、気温は高く、降水量は平年並~多いと予想される。(± ~ +)

防除上考慮すべき事項

- 1) 防除指針に従い初期防除に努める。

9. キュウリ褐斑病(施設)

予報内容

発生量 並

予報の根拠

- 1) 巡回調査では各地とも発生はやや少ない。(-)
- 2) 気象予報によれば、気温は高く、降水量は平年並~多いと予想される。(+)

防除上考慮すべき事項

- 1) 防除指針に従い初期防除に努める。

10. キュウリうどんこ病(施設)

予報内容

発生量 並

予報の根拠

- 1) 巡回調査では、各地とも発生はやや少ない。(+)
- 2) 気象予報によれば気温は高く、降水量は平年並~多いと予想される。(+)

防除上考慮すべき事項

- 1) 防除指針に従い防除する。
- 2) 防除の際には、葉裏面にも薬剤が良くかかるように散布する。
- 3) 施設内の過湿に注意する。

1.1. ホウレンソウベと病

予報内容

発生量 やや少

予報の根拠

- 1) 巡回調査では、各地とも発生は少ない。(-)
- 2) 気象予報によれば、気温は高く、降水量は平年並～多いと予想される。(± ~ +)

防除上考慮すべき事項

- 1) 発生を認めたら防除指針に従い防除する。
- 2) 施設では、密植・過灌水に注意する。

1.2. ネギさび病

予報内容

発生量 やや少

予報の根拠

- 1) 巡回調査では、各地とも新葉での発生は少ない。(-)
- 2) 気象予報によれば、気温は高く、降水量は平年並～多いと予想される。(± ~ +)
- 3) 夏期の気温が平年より高く推移したため、越夏菌量は少ないと予想される。(-)

防除上考慮すべき事項

- 1) 発生を認めたら防除指針に従い早めに防除する。

1.3. ネギ黒斑病

予報内容

発生量 並

予報の根拠

- 1) 巡回調査では各地とも発生はやや少ない。(-)
- 2) 気象予報によれば、気温は高く、降水量は平年並～多いと予想される。(± ~ +)

防除上考慮すべき事項

- 1) 防除指針に従い初期防除に努める。

1.4. ネギハモグリバエ

予報内容

発生量 やや少

予報の根拠

- 1) 巡回調査では発生量はやや少ない。(±)
- 2) 年間の発生消長は、今後減少に向かう。(-)
- 3) 気象予報によれば気温は高く、降水量は平年並～多いと予想される。(±)

防除上考慮すべき事項

- 1) 防除指針に従い防除する。

1.5. ネギアザミウマ

予報内容

発生量 並

予報の根拠

- 1) 巡回調査では発生量はネギでは平年並であるが、キャベツでは一部圃場で多い。(+)
- 2) 年間の発生消長は、今後減少に向かう。(-)
- 3) 気象予報によれば気温は高く、降水量は平年並～多いと予想される。(±)

防除上考慮すべき事項

- 1) 防除指針を参考にして防除する。

16. 野菜共通 コナジラミ類

予報内容

発生量 オンシツコナジラミ：やや少
 タバココナジラミ ：並

予報の根拠

- 1) 巡回調査では西多摩地域ではオンシツコナジラミ、南多摩及び北多摩地域ではタバココナジラミが優占種となっている。密度はオンシツコナジラミは少なく、タバココナジラミは平年並である。(- ~ ±)
- 2) オンシツコナジラミは今後増加期にあたる。(+)
- 3) 気象予報によれば気温は高く、降水量は平年並～多いと予想される。(±)

防除上考慮すべき事項

- 1) 0.4mmの目合いの防虫ネットやUVカットフィルムの展張など、物理的防除に努める。
- 2) 都内ではタバココナジラミのうちバイオタイプQが占めているため、タイプQに有効な薬剤を選択し、適正に使用する。
- 3) トマト黄化葉巻病発病株は発見次第、直ちに抜き取って処分する。

17. 野菜共通 ハスモンヨトウ

予報内容

発生量 多

予報の根拠

- 1) 巡回調査では、発生量は全体的に多い。(+)
- 2) フェロモントラップ調査では、誘殺数はやや多い。(+)
- 3) 今後も発生は継続する。(±)
- 4) 気象予報によれば気温は高く、降水量は平年並～多いと予想される。(±)

防除上考慮すべき事項

- 1) 卵塊で産卵されるので若齢幼虫が分散しないうちに葉ごと切除し処分する。
- 2) 発生を見たら防除指針に従い防除する。

18. 野菜共通 オオタバコガ

予報内容

発生量 多

予報の根拠

- 1) 巡回調査によると各地とも寄生株率は31.5%(トマト)と例年に比べ多い。(+)
- 2) フェロモントラップ調査の誘殺数はやや多い。(+)
- 3) 気象予報によれば気温は高く、降水量は平年並～多いと予想される。(±)

防除上考慮すべき事項

- 1) 果菜類の幼果や花き類の蕾を好むので排泄糞に注意、被害果や花蕾を放置せず、速やかに処分する。
- 2) キャベツ、ハクサイ、トマト、ナス、インゲン、ピーマンなどのほか、バラ、キク、カーネーションなども加害する。
- 3) 防除指針を参考にして防除する。

花きの病虫害

1. キクのアブラムシ類 (ワタアブラムシ・キクヒメヒゲナガアブラムシ)

予報内容

発生量 並

予報の根拠

- 1) 巡回調査では、各地とも発生は少ない。(-)
- 2) 年間の発生消長から見ると今後増加期に当たる。(+)
- 3) 気象予報によれば気温は高く、降水量は平年並～多いと予想される。(±)

防除上考慮すべき事項

- 1) 防除指針に従って薬剤を散布する。

2. 花き共通 灰色かび病

予報内容

発生量 並

予報の根拠

- 1) 巡回調査では発生量は少ない。(-)
- 2) 今後、増加期に向かう。(+)
- 3) 気象予報によれば、気温は高く、降水量は平年並～多いと予想される。(± ~ +)

防除上考慮すべき事項

- 1) 防除指針に従って薬剤を散布する。
- 2) 施設では朝晩の加湿・結露に注意する。
- 3) 同一系統の薬剤を連用せず、ローテーション散布を行う(薬剤耐性菌の発生回避)。

テレフォンサービス
042(525)8407

防除所ホームページアドレス
<http://www.jppn.ne.jp/tokyo>

病虫害の発生予報，発生状況，防除方法などをお知らせ
しています。

防除指針オンライン版平成22年度版公開中！
(防除指針正誤表等最新情報をご確認下さい)

農薬に関する詳しい情報は、農林水産省ホームページの
「農薬コーナー」をご覧ください。

(<http://www.maff.go.jp/nouyaku/>)

